



# オレゴン便り

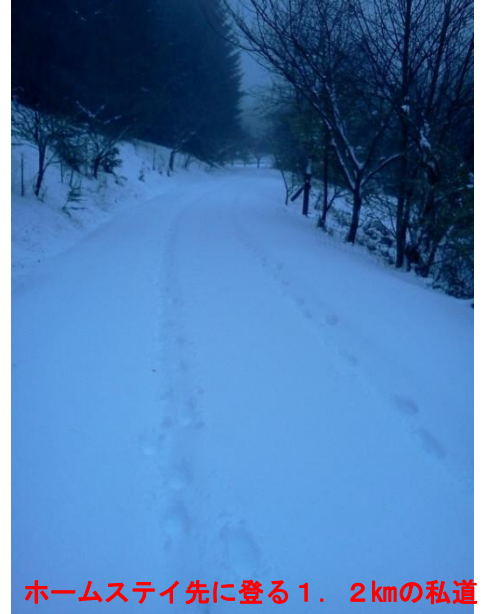
発行:中野壘紀子

2014年



2月になり、オレゴンの日の出時間は午前7時20分頃になりました。日の入り時間は午後5時30分頃です。1月上旬は、日の出が午前7時55分頃だったので、通勤途中はまだ夜のように真っ暗でした。学校が始まる午前7時55分も薄暗かったので、1年前はそのようなことにもかなりの違和感を抱いていましたが、2年目は何の違和感も持たずに過ごしている自分をとても不思議に思いました。

1月のオレゴンは、穏やかな天候に恵まれ、晴れる日も多く、また気温も昨年よりも高めの日が多かったため、通勤もとても楽でした。昨年と比べ、凍結による恐怖の運転をほとんど経験しなかったからです。しかし、2月6日、2ヶ月ぶりにマクミンビルやシェリダンに雪が降りました。午前11時頃から徐々に地面に積もり始め、学校は13時で放課が決まりました。気温も氷点下7℃、パウダースノーとはいえ、車のフロントガラスは凍って見えなくなり、吹雪気味で視界も悪く、ステイ先までの山道の運転はまさに恐怖でした。片道20マイル(32キロ)のうち、半分くらいは制限速度55マイル(90キロ)のハイウェイですが、残りの半分は市街地や山道の運転です。(20マイルのうち、信号を1箇所しか通過しないというのも、アメリカの田舎という感じがします)普段は35分の道のりは2倍近い時間がかかりました。オールシーズンタイヤとはいえ、スタッドレスではないタイヤでこんな雪道を運転することはこの先ないであろうと思うので、ある意味、貴重な経験になりました。7日(金)と10日(月)は、この雪の影響で、ポートランドやセーラム地域を含め、多くの学校が休校になりました。8日(土)の夕方には、ステイ先の周りは30cmほどの積雪になっていました。山を下りてマクミンビルの市街地に行くと、それでも10cmほど積もっていました。このあたりでこれほどの積雪があるのは、大変珍しいそうです。



ホームステイ先に登る1. 2kmの私道

## 高校サッカー決勝戦について

中学生の日本文化と会話の授業で、日本の高校の部活動や甲子園、そして国立サッカー選手権を紹介しました。インターネットにアップされている試合の映像があったので、どのようにして富山第一高校が優勝したかを生徒たちに見せました。「Go, go, go.」を「行け、行け、行け」と言って応援し、点数が入ると、生徒たちは大盛り上がりでした。試合終了間際に同点に追いついたり、延長戦終了間際に逆転したりした瞬間の盛り上がり様は、まさに日本にいてリアルタイムで観戦している様でした。



生徒の感想の一部を紹介します。「試合終了間際でも、決して諦めてはいけない」、「どちらのチームも最後まで本当に一生懸命頑張っていた」、「チームワークがとてもよかった」、「負けていても勝てると信じて最後まで頑張ることが大事」、「日本の高校生のサッカーのレベルが高いことがわかった(サッカーをしている男子中学生の感想)」、「監督がいかに選手たちを誇りに思っているかがわかった」、「富山県の人たちがいかにみんなで応援していたかがわかった(当日の富山の様子を紹介した映像を見た後の感想)」、「中野先生の地元の富山県の高校が、全国1位になって私も嬉しい」

その他の日本文化の授業では、初級1の児童生徒は体のパーツを日本語で学習し、福笑いをしました。初級

2の児童生徒は昨年学習した「節分」を復習しました。少しヒントを与えると、かなりの子どもたちがすぐに思い出し、英語や簡単な日本語を交えて説明してくれました。このように1年経っても覚えていてくれるということはとても嬉しいことです。復習した後、昨年同様、恵方巻きを作り、東北東を向いて願い事をしながら食べました。



福笑いに挑戦



恵方巻きを食べています

## アメリカで感じた文化や習慣などの違いについて

私のオレゴンへの派遣期間は、残り1ヶ月半になりました。オレゴン便りも今月号と来月号の2号を残すのみです。そこで、このオレゴンでの1年半を振り返り、私が感じた日本人とアメリカ人の文化や習慣、価値観などの違いについてお伝えしようと思います。

私は大学時代、英語やアメリカ地域学を専攻していたため、文献や大学の授業などで読んだり聞いたりしていたので様々な事前知識があった方だと思います。また、アメリカに来たのも今回が5回目、アメリカでのホームステイも4回目でした。それでも、1年半という長い期間滞在して初めて気付いたこと、旅行ではなく暮らしてみても知ったこと、知識として知ってはいたけどやっぱり本当にそうなのかと思ったことはたくさんありました。そのような事柄の中からはいくつか取り上げたいと思います。

### 学校編

#### ① スクールランチ

学校での昼食は、家からサンドイッチやレフトオーバー（残り物）を持ってくる方法以外に、学校区から提供されるスクールランチを食べることもできます。そのスクールランチのメニューは、メインが、ピザやホットドッグ、ハンバーガー、ブリトー、マカロニ&チーズ、チリスープ（肉、野菜、豆の入ったスープ）など高カロリーなものが多いです。サイドメニューとして、ミニキャロット、きゅうり、トマトなどの生野菜、リンゴやオレンジなどの果物、チップスなどの小袋が付きます。日本の学校給食が、いかに栄養のバランスを考えられたものになっているかを実感しました。



## ② 保護者のボランティア

校外学習や遠足の際に、生徒の保護者がボランティアとして付き添いをするのは珍しいことではありません。派遣校 SJS の2泊3日の遠足の際にも、食事の準備は保護者の方がしてくださいました。

## ③ ファンドレイジング

アメリカの学校でよく見かけるのが、「ファンドレイジング」（資金集め）です。アメリカでは学校に割り当てられる資金が足りないということで、ファンドレイジングがよく行われています。例えば、6年生のアウトドア・スクールの費用が足りないということで、昼休みに6年生が1枚1ドルでクッキーを売ったりします。事務の方がお金の管理をしているとはいえ、生徒自らがクッキー等を売っている様子を初めて見たときは驚きでした。

## ④ スクールサプライリスト

生徒たちが学校で使う文房具についてです。9月の新学期開始前に、学校から「スクールサプライリスト」が伝えられ、リストにある鉛筆、セロテープ、のり、色鉛筆、マジック等の文房具を指定された数だけ各自で購入し、新学期に持っていきます。集められたそれらの文房具は、学校で共有文具になるのです。そのため、自分の筆箱も持っていない生徒が多く、最初はカルチャーショックでした。

## ⑤ 休み時間

教室移動の時間しか考えられていません。ちなみに SJS は3分です。そのため、授業時間が「4限目は10時37分から11時23分まで」というように中途半端な時間になっています。日本の学校のように「10時40分から11時30分まで」「10時35分から11時25分まで」というように、5分、10分で区切ってわかりやすくされていないことは、以前、別のアメリカの高校に訪問した際から知っていましたが、実際にアメリカの学校で働いてみると、授業開始時刻や終了時刻がいつになっても覚えられず、大変苦労しました。

## 生活編

### ① オーブンを使った料理

巨大オーブンを使った料理を頻繁にしています。（家庭にもよるのかもしれませんが）

### ② バーベキューグリル

一家に1台、ダイニング横の外のデッキや庭に置いてあります。「グリルを使っての料理は父親の仕事」と思っている人も多いようです。これを使って、ハンバーガーの肉を焼いたり、じゃがいもなどの野菜を焼いたり、鮭を焼いたりします。

### ③ 食器洗浄機

「食器洗浄機の使用は当たり前」という感覚は、日本ではまだそんなに浸透していないのではないのでしょうか。どこの家庭におじゃまして、当然のように食後はお皿を食洗機に入れていました。

### ④ 洗濯乾燥機

外には干さず、洗濯機が終わったらすぐに乾燥機の中へ。

### ⑤ レストランでの食事

アメリカのファーストフード店やレストランで食事を注文すると、日本とは比べものにならないほどの量が出てくるのは、皆さんもご存知の方が多いとは思いますが、レストランで食べきれなくても、ほとんどの人は、持ち帰り用の箱をもらって、家に持ち帰っています。翌日、レンジで温めて昼食などに食べることが多いです。昔、英語の授業で、持ち帰り用の入れ物を“doggy bag”（犬用の入れ物）として表現を学んだ記憶がありますが、アメリカ人の英語を聞いていると、



↑ オーブン(サンクスギビングデーのターキーを調理している様子)



↑ バーベキューグリル

“Can I have a box?”と単に“box”と言っているだけで、“doggy bag”と言っている人をこの1年半、一度も耳にしませんでした。

レストランでの食事と別の話になりますが、このような生の英語の表現を知るという点に関して、もう一つ印象に残っていることがあります。それは、摂氏 35℃以上もあるような暑い日、私が“*It's really hot today.*”と言うと、アメリカ人の友人が“*Yes, it is very warm.*”と言ったことです。「hot は暑い、warm は暖かい」という感覚で英語を学んだ私にとっては、このような状況でも warm を使うということを知り、大変驚きました。とても不思議に思ったので、他のアメリカ人の友人数人にも聞きましたが、「ものすごく暑いときでも warm も使う」と答えました。生きた英語を学ぶというのはこういうことなのだな、と実感した出来事でした。



アメリカのメキシカンのレストランで



一人前のバーベキューサンドイッチ

## ⑥ 誕生日パーティーはお泊まり会“sleepover”

小学生や中学生に月曜日に「週末、何をしましたか」と聞くと、“sleepover”という答えが返ってくるのがよくあります。特に、友達の誕生日会は、寝袋を持って友人宅に行き、プレゼントを渡し、ケーキを食べたり、ゲームをしたりして遊んで夜更かしをし、簡易マットレスの上に敷いた寝袋で並んで眠るというのが一般的なようです。自分の、または家族兼用の寝袋をみんな持っているようなので、そのことにも驚きました。

## ⑦ 日本のことはあまり知られていない

自分自身がアメリカのことを1年半生活してはじめて知ったことがたくさんあったように、アメリカ人も日本のことを誤解していることがたくさんあるのだな、と思ったことが何度もありました。「日本人は、パンを食べないんでしょ?」「日本人は、週に何度も寿司を食べているんでしょ?」「日本にはティラミスやブラウニーがないから、どんな食べ物か知らないでしょ?」このような食べ物に関する質問は、他にもラザニア、グラタン、インドのナンなど、いろいろと聞かれたように思います。日本食ブームもあってか、日本人は日本食レストランで出されるような食べ物しか食べない、と誤解されているのかもしれませんが、食べ物以外でも、いろいろと勘違いされていることがあると知りました。



この他にもいろいろと気付いたことがあったはずなので、思い出したことがあったら次号の最終号でお伝えしようと思います。

グローバル化が進み、インターネットで調べれば即座に様々な情報を得られる現在の世の中ですが、やはり異文化を理解するには、実際にその地に行ってみることが大切だと思います。文化の異なる人々が、お互いをよく理解するためには、世界には様々な文化、習慣、価値観があるということを知り、相手のことを理解し、受け入れようとするのが大切だと思います。また、異文化を知ることは自分の文化を見つめ直す機会にもつながります。日本人の海外への留学生数が減少してきているとよく報道されていますが、日本の子どもたちにもぜひ、うちにこもらず、勇気を出して海外に行き、異文化を体験してほしいと思います。そこから学んだことは、その後の人生の大きな糧になることは間違いないと思います。